

■聴覚支援学校における実践事例

言語獲得がむずかしく視覚活用が必要な子どもの 読解教材としてマルチメディアDAISY図書を利用する

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校
黒田 充治

はじめに

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校は、国宝姫路城のすぐ近くにある、耳の聞こえにくい子どもたちのための学校で、一人ひとりの障害の状況を把握し、コミュニケーション能力の向上、豊かな言語力の育成などを教育目標に掲げ、学習活動を行っています。

昨年度は、パソコンに大型テレビを接続し、マルチメディアDAISY図書を1年生に、『11ぴきのねこ』のお話を楽しませたり、国語の教科書の単元『おおきなかぶ』の学習時に補助教材として活用したりしました。

今年度は、教科書をそのまま使うことがむずかしく、教科書の教材文を少し短く簡単にしたものや、別の教材を使う子どもを対象にしました。

本校の子どもたちは、聴覚に障害があるゆえに言語獲得がむずかしく、視覚活用が必要な子どもたちが数多くいます。その中でも発達障害を併せ持つ子どもは、文章を読んでその

内容をイメージしたり読み取ったりすることが大変困難で、文章の読解は苦手な分野です。そこで、そのような障害を併せ持つ聴覚障害児にわかりやすい文庫をどのように活用すれば、イメージ化を支援することができ、文章を読解しやすくする効果があるかについて取り組んでみました。

仮説

発達障害を併せ持つ聴覚障害児を対象に、初めに物語教材の画像を見せてイメージを持たせる。

つぎに画像を使って話し合い活動をする。そして、文章を読ませる。このような学習方法で取り組むと、文章の内容を大まかに理解することができるのではないかという仮説を立てました。

小学部3年生への実践

本校の小学部3年生のうちの3名は、発達障害を併せ持つ聴覚障害児で語彙力が乏しく、コミュニケーション

能力に課題があり、教材文を読んでもなかなか文章の内容を読み取ることがむずかしいという実態があります。

マルチメディアDAISY図書の中から比較的内容を読み取りやすい昔話『浦島太郎』を教材として取り上げました。

そこで、初めから文章を読ませるのではなく、まず文字のない動画を見せて物語のおおまかな流れのイメージをもたせました。

つぎにいくつかの場面の静止画像を見て、教師がその場面の様子を手話で表現しました。そしてわかったことを発表させたり、ワークシートに書かせたりすることによって、イメージを膨らませました。

その後、文章を読ませて、登場人物や物語の流れについてより具体的なものにしていきました。

画像を見て

子どもに画像だけを見せたところ、全員が大変興味をもって集中して見ていました。

つぎに内容について話し合った後、わかったことを文章に書かせました。文章だけでは読み取ることがむずかしい子どものうちの一人は、正しい文章表現ではないものの大まかな内容を書くことができていました。他の二人は、全体の内容の把握はむずかかったようで、興味をもった竜宮城の

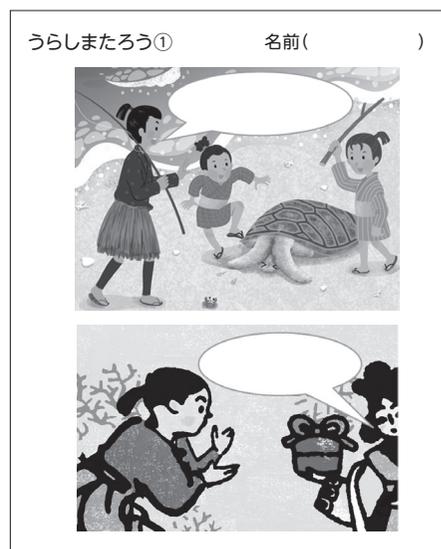
場面の様子について書いていました。

しかし、「また見たい」「もっと続きが見たい」という意欲的な姿勢が見られました。

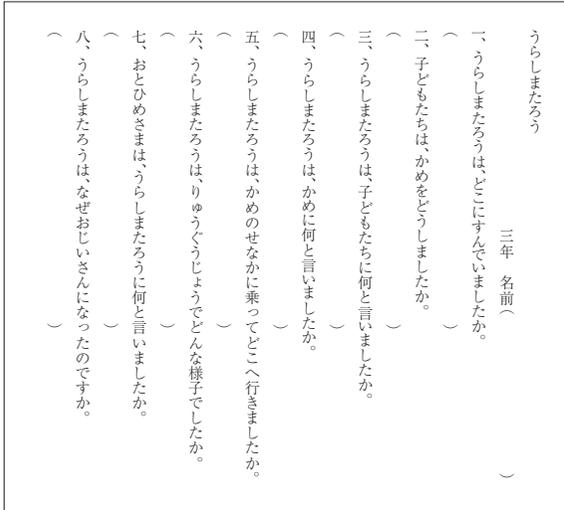
手話での説明を聞いて

さらにマルチメディアDAISY図書の文章を少し短くしたものを、教師が手話で表現することにより、全員が場面ごとの様子を粗方把握できるようになってきました。

浦島太郎が亀をいじめている子どもたちに「亀がかわいそう」と言ったことや竜宮城で浦島太郎が楽しい踊りを見たりおいしいごちそうを食べたりした様子などを、ワークシートに正確に文章に書き表すことができました。これまでの学習場面では、あまり見られないような内容の把握ができていました。



吹き出しに書き込むプリント



内容を問う設問形式のプリント

マルチメディアDAISY図書を 読んで

最後にマルチメディアDAISY図書を見て、子どもたちが手話表現をしながら読んだ後、設問（なぜ浦島太郎がおじいさんになったのでしょうかなど）形式のプリントで物語の内容を質問したところ、全員がほとんど正しく答えることができていました。

結果

耳の聞こえにくい子どもにとって、画像を見せることはイメージ化を支援して文章の内容を読解するのに有効であることや、学習意欲をかき立てる手立てになることがわかりました。

今後は、内容の把握が難しい教材についても、画像を使って文章の内容のイメージ化を支援し、内容の把握の一助にしていきたいと考えています。

考察

聴覚障害児にとっては、マルチメディアDAISY図書の画像に字幕や手話通訳があると、内容を理解するうえで大変手助けになると思います。

しかし、マルチメディアDAISY図書の読み上げているところの黄色の表示スピードを最も遅く設定しても、子どもたちが手話をしながら読んでいくには速すぎて、間に合わない場面がありました。もう少し遅いスピードにもなるようになり、それが読みやすく改行された書き方（音読譜）になればさらに読みやすいと思われます。

マルチメディアDAISY図書の中には、文章量の多いものがいくつかあり、文章の内容を理解するにはむずかしいので、もう少し簡単で短いものもつくっていただければ活用しやすくなると思います。

最後に、障害の種別によって、マルチメディアDAISY図書の内容がかなり違ってくると思われます。視覚に障害のある子どもには、音声で聞き取りやすいもの、聴覚に障害のある子どもや視覚優位な自閉症のある子どもには、視覚的に見てわかりやすいものが適していると思いますので、障害種別ごとのマルチメディアDAISY図書ができるようになることを願っています。